

かがやき

令和5年9月29日（金）
多摩市立連光寺小学校
特別支援教室 かがやき学級
学級通信 NO. 7

「気持の言葉・感覚の言葉」で つながったり共有したりする空間・今日の自分のココロは？

以前にも紹介していましたが、小集団指導の中で「スピーチ」「テーマトーク」という形で自分の気持や感覚を表出する場面があります。休み明け、今回もこの指導を継続して子供たち同士、互いに自分の気持や感覚について共有をしている所です。今日のお題は「今日の自分の調子」「プール指導について」「運動会」についてという具合でした。

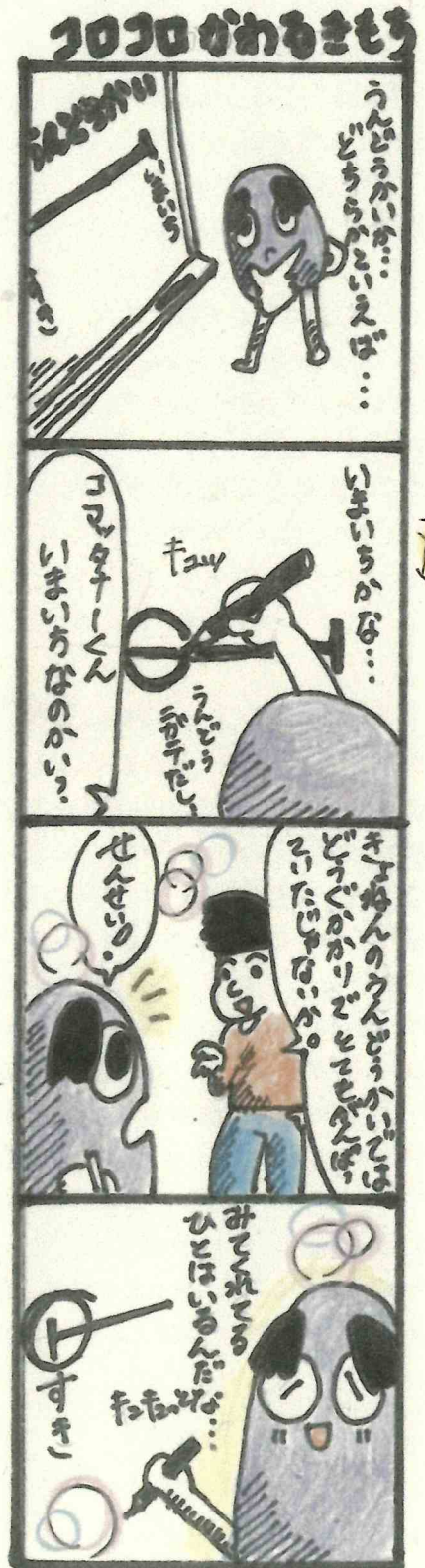
今回は最初に横線をホワイトボードに引き、左側を「良い」「好き」右側に「いまいち」「苦手」を設定して自分の気持や感覚がどの辺にあるのか書き込んでいきます。迷わずに「良い」の側を選ぶ子。ちょっと考え込んで「いまいち」の側を選ぶ子いろんな反応が出てきます。そして、理由についても聞いていきます（必要に応じて教師が言葉を補いながらする子もいます）。例えば以下のようなやり取りが出てきました。

A さん「今日は朝の時間、ちょっとだけ好きなゲームができた。そのときにレアなアイテムをゲットできたので朝は気分が良い！」

B さん「今日は好きなプロ野球チームの試合があって、好きなピッチャーが先発する」ので気分が上がる。

C さん「昨日は習い事があり、とても疲れて寝坊してしまった！」ので、気持ちがよくない。等々。

またこうした意見を共有する中で「へえ～朝のゲームでそんなに気分変わるんだ」「野球だけで気分よくなる？」「好きなものがあると確かにそうかもね。」「習い事大変なんだね。」「私も同じ気分！」等々の声も出てきます。他の「プール」や「運動会」についても人それぞれの気持や感覚からの発言が出てきました。日々全力で学校生活を送る子供達。自分だけでは整理することが難しい気持ちもあると思います。この小集団指導の中では自分のココロや気持ち、感覚がどんなものか言葉にしたり共有したりする中で自分自信に見えてくること。相手のことがわかることもある。そんなことを付け加えて話していきました。（*通信の内容には他校の巡回指導場面も含まれます。）



「褒められる」ことってどれくらいあるだろう。自戒もこめて大人の振り返り……

これも子供たちとのやり取りから出てきた話で「褒められること」というお題でスピーチしたときのエピソードです。ある高学年グループのトーク場面で自分が最近褒められたことについて話をしていくと、どの子もなかなかどうしてマイナスなエピソードしか出てこない。(つまり「怒られたこと」「お小言」の話がメインでした。)学校でも家庭でも「褒める」ことの大切さは教育の観点、子育ての観点から常々語られていることではあるのですが当の子供たちの生活の中では「怒られてる」という印象のほうが強く残っていることを強く感じました。とは言っても、大人側(教師や保護者。様々な立場があると思いますが。)から振り返っても日々の自転車操業の中で、勉強のこと。ゲーム時間のこと。宿題のこと。生活リズムのこと。等々。子供達のどの場面を切り取って褒めたものかは大いに悩むところでもあります(むしろ「いい加減に気が付いて!」と声を張ってしまうことの方が多いかもしれません……)。ただ、こんな場面がありました。以前、職員室で担当児童の担任の先生と話をしているときに、ふとその担任の先生がそのA君のちょっとした授業中の所作について褒めました。後日、A君に何気なく担任の先生が褒めていたことを伝えました。すると、普段ちょっとツンツンしてるA君の顔がとても和らいで「ふ～ん、まあね。」とまんざらでもない表情と態度となりました。やはり、ほんのちょっとしたことや何気ない「評価」「褒め」でもいい。「肯定的」なことが伝えられることは非常に意味のあることだと感じました。自分にとって「肯定的」な評価がなんだか嬉しくなったり自信につながったりするのは大人も子供も同じですね。忙しい日々ではありますが、「肯定的」な視点で物事を見ていくことの大切さについて改めて考えた次第です。

お知らせ

*第二期の個別指導計画を10月上旬に配布予定です。内容を確認していただき、各ご家庭で保管をお願いします。内容について不明な点、変更して欲しい点、加えて欲しい点などありましたらご記入いただき、教室まで返送してください。その必要がない場合、返送は不要です。ご家庭でそのまま保管をお願いします。

